

中國兵亂記 六

清水源三郎へ忠賞并中島元行へ備中御仕置被仰付事

天正十年六月二十三日、中島大炊助・清水源三郎・中島吉十郎致登城候へと仰、致參城候へば、輝元公源三郎を被召出、親長左衛門儀累年當家へ忠節他に無類に思召候。今度於高松籠城類日相抱、其後令切腹諸人を助置候段、敵御方共に驚耳目候。古今の武勇、當家の面目無比類候。其方家人共扶持仕置、勵武勇候様に御意にて、來國俊の御腰物致拜領候。知行居城等隆景より可申渡の由。其後、中島吉十郎を被召出、於三原永々神妙に相勤候由被及聞召候。祖父長左衛門親大炊助に不相替武勇を心掛候様に御意にて、家次の御腰物致拜領候。中島大炊助多年抽忠義之段無比類思召候。上方筋亂國に付、備中諸仕置當家へ可被任心體と、秀吉卿被仰越候。長左衛門存命の時相改候境目城普請等、元清並宍戸備前と以相談可被申付候。

輝元卿小早川隆景より中島元行へ感狀を給事

同年七月三日、從輝元公爲御使者、鶉飼新右衛門を被下、高松陣其外累年の忠節無比類、由御感狀被下候。今度羽柴筑前守押下節、御方備中於高松籠城、數度の戦功、無二の忠節、無比類覺悟候。一手之者共持の段聞届、誠心譽の至に候。長左衛門不居候間、境目の越無緩可被申付候。謹言。

七月四日

中島大炊助殿

輝元判

同年八月、從隆景卿爲御使者、井上又右衛門を被下、同國高松籠城の節、於所々遂防戰、忠節無比類、由の

御感狀、并、刑部卿不_レ相殘_レ御加増被_レ下候。

今度上勢就_レ罷下、高松城へ清水同前に被_レ相籠、數度被_レ遂_レ防戰、數多被_レ討捕、其上自分の構兄弟同名九右衛門被_レ殘置、堅固に被_レ相抱、無_レ二之忠義無_レ比類_一候。向後彌忠節類存候。就_レ夫賀陽郡の内刑部卿不_レ相殘_レ令_レ扶持_一候。猶委細井上又右衛門可_レ申候。恐々謹言。

八月十三日

中島大炊助殿

小早川隆景判

蜂須賀彦右衛門尉黒田官兵衛尉備中へ分地請取に
被參に付高橋川切に宍戸隆家中島元行改相渡事

同年十月上方筋兵亂相靜まり候に付、安國寺申定候通、備中國高橋川切に、蜂須賀彦右衛門尉黒田官兵衛へ、宍戸備前中島大炊助より相渡し候故、清水中島兩家の在城宇喜多秀家へ被_レ遣候に付、戰死の殘人召連住馴し古郷を立退き、同國川部村に暫時罷在る内、吉川治部少輔歸國の時、備中の御仕置可_レ被_レ頼由にて、從_レ秀吉卿_一黒田官兵衛を被_レ指添_一候節、秀吉卿爲_レ掟意_一中島大炊助清水源三郎被_レ召出、先知可_レ被_レ下候間、罷登り候様にと被_レ申渡_一候。中島大炊助清水源三郎御請に、難_レ有_レ上意に御座候へ共、數代毛利家に相隨懇意不_レ淺故、從_レ信長公_一備中備後可_レ被_レ下不_レ任_一掟意_一候。自今毛利家に罷有_レ度奉_レ存間、秀吉卿へ御免被_レ爲_レ成様に、官兵衛殿へ宜御取成奉_レ頼と申上_一罷出_一候。其後安國寺上京申時、輝元卿より被_レ仰下_一は、中島大炊助清水源三郎儀秀吉公へ被_レ召出_一候處に、御請不_レ申上_一其恐_レ有大炊助_一に二百人扶持、清水源三郎に二百人扶持被_レ下、川部村に罷在候。

猿掛山城寺造營附北條家并能島來島因島の事

中島大炊助清水源三郎は、高松城より川部郷中へ從類引退く。三千餘の人數なれば、近村も騒動仕ける。一族譜代

*昔陶山とある
は太平記笠置
山攻の條に見
えし陶山藤三
を指すなり。

の内山田村鬼身山城主宍戸備前へ二百餘呼抱候。殘る從類を毛利元清卿へ被_レ召出、石田村横谷山の麓に普請被_レ仰付、石田城所々に揚_レ矢倉一番士を籠置給ふ。妹村關が鼻を過行けば、草壁郷中東三成茶磨山二方を振廻し、所々に揚_レ矢倉一二三の丸作り、江木半四郎城主たり。抑横谷猿掛山と申は、昔より依_レ爲_レ名城、庄民高橋家持來候を、永祿年中に右馬頭元就公備中へ御出陣、所々の城主此時御退治、御四男毛利治部大輔元清卿を城主に被_レ定置、御普請被_レ仰付候。北に當て大川を帶にして、嶮岨成嶺に要害を立給ひ、草壁郷中里山田城燒山の要害、中村の砦、雨乞山構、伽藍山の城四十八丸に番士を被_レ籠置、猿掛山城南の尾崎に、星尾妙現神體、同社に不動像三體、藥師像三體、毘沙門像三體、多々良濱より勸請任り給ふ。同村萩原大明神兩社共に御造營被_レ仰付、毛利元丸卿并秀元卿御氏神御信仰不_レ淺。秀元卿御成長被_レ成朝鮮御陣の時、明石與次兵衛を御仕置に被_レ仰付候節、秀吉公御滿悅被_レ成候て被_レ任_レ正四位宰相。天下無双の名大將と秀吉公御意被_レ爲_レ成候。同村に安徳天皇御勅號船木山洞松寺、開山恕仲天闍禪師より、及二百五十代佛法之靈地たり。永祿年中茂林芝繁禪師當住之時、毛利治部大輔元清卿御菩提寺に被_レ成、神儒佛共繁昌也。東三成山本城には江木の者共相守、小林神子山城主武井宗圓・同左馬允、小林山城に同又三郎、小田岩屋城には小田孫兵衛政清、淺海村瀧山城一族譜代を以て相守り、走出村折敷山城に有_二岡右京_一名越修理、猿掛山南表笠岡には同掃部、西濱には村上彈正相守る。昔陶山昔陶山の構へし名城也。此所に代々菩提寺偏照院に有_二墓所_一。能島・來島・因島三家共に有_二此兩城_一。日本船警固也。家々船軍の戦功は此家より出る。横谷村猿掛城舟路の關所也。園井村古城主伊勢新左衛門貞春先祖は、小松内大臣平重盛十七代の後胤伊勢駿河守、備中國園井村へ來り、以_二戦功_一六百貫を知行して、後月郡江原高越山に築_二居城_一。禪宗を信仰、長谷山法泉寺造營仕給ふ。伊勢新九郎長氏兒童の時、勵_二武藝_一。家を起し、父母の名を後代に顯さん事を工夫任り、同國吉備津大明神に願を掛け、三七日參籠滿する夜、夢想に自_レ是東國へ起給へ、御劍を可_レ遣とあれば難_レ有思ひ、下向之節華表の邊にて旅人に行逢候。彼の申は、我等路銀無_レ之及_二難儀_一候。此刀を被_レ召代を給はれと云ふ。長氏夢想の御劍是成と心中に祈念任り、刀を買取り三度頂戴仕る。自_レ夫武者修行を思立ち、近郷にて名家の兒童内藤・笠原・二階堂・清水・大道寺・松田・井上・平井、勇士三十人伊

勢長氏同道して諸國へ武者修行に出る。數度有_レ戰功。其後今川五郎氏親妻は長氏伯母なれば、駿河國へ下り太守に申斷請_レ扶持。長氏儀大氣者と被_レ及_レ見。伊豆爲_レ押興國寺城番大將と成る。延徳年中に堀越城主足利茶々丸殿を責捕り城主と成る。其後相模國小田原城を乗取り、姓名を改_レ北條早雲瑞公、關八州の太守と成り給ふ。此時駿河國の摺袈裟奇特多を被_レ及_レ聞、重寶に可_レ成物とて、古郷なれば備中國菩提寺長谷山法泉寺へ有_レ奇進。早雲兒童の時、備中木の子村泉山を居城に築かんと繩張有_ニ于今_一。一類伊勢豐後守・同新左衛門貞春・同兵庫助貞勝、室は中島加賀守輝行娘也。此家に馬の鞍骨を打事數代名人也。諸家に是を重寶す。尼子伊豫守義久爲_ニ退治_一此國へ出陣の節、伊勢又五郎は毛利家の致_ニ御供_一於_ニ富田城_一度々相戰、遂_ニ高名_一討死仕るとも申也。後年小田原邊より僧侶來り摺袈裟を所望す時、子細を咄し申は、伊豆の北條にて藤澤上人へ夢想に、備中國西江原長谷山法泉寺摺袈裟を取寄、朝夕火焰の見える所へ納候へ。此所は曾我五郎墓所にて最期の妄念深く、今に右の通に候と、曾我五郎生替り、其所の五郎太夫蘇りて申上れば、長谷山法泉寺へ地僧を遣し右の趣を尋れば、所の僧侶是を不_レ知處に、其節住持へ夢想に堂の二階に皿盆經箱是也。其奇特多_レ于_レ今重寶也。

備中小平井天神宮の事

備中國後月郡西方村神島天神宮華表笠木、一方は落失せ、一方は有_レ之事幾年ぞや。風吹ば動き數十年不_レ落事、諸人不_レ審に思ふ。有人詩曰、

營_レ廟長沙際、威靈如在_レ中、潤恩神島雨、偃德烏江風、松老年々綠、梅飛歲々紅、儼然人所畏、華表古今同。

行軍之次第

*以下の二節目次に之を缺く

行軍の法は、客戰の始、勝敗の所係、莫_レ不_レ慎。兵書曰、不_レ知_ニ諸侯之謀_一者不_レ能_ニ豫文_一、不_レ知_ニ山林嶮岨澤之形_一不_レ能_ニ行軍_一、不_レ用_ニ鄉導_一不_レ能_レ得_ニ地利_一。按ずるに、味方配之習有_ニ遠隔_一也と云ども、良將用る處符節合たるが如し。一、出陣之日、并、刻限究て不_レ可_レ變、變する時は兵心不_レ定して失多し。雖_レ然不_レ意を用る時は各別也。

一、出門は敵を見るが如可_レ仕。敵譬ば百里の外に有と云とも、聊不_レ可_レ有_ニ怠慢_一六韜曰、兵勝之術疾擊_ニ其不意_一
一、一里計斥候を遣し、段々握_レ奇まで續くべし。行路嶮難にして往來煩しき時か、又は敵伏_レ兵嶮に逢ば、相鬪之旗狼煙何にて
も兼約を可_レ用。

一、使_レ士自己之働に拘て、注進遲滞せば、以_レ注可_レ禁。

一、太鼓螺二可_レ止、二品組毎にあり。

一、出行は寅の上刻に人馬の食を調へ、寅の中刻に武具を著し、先陣可_レ討立、是より次第を以、二陣三陣共可_レ押行、何も具て
可_レ約。

一、其地の到着は晝を可_レ限。然らざれば小屋を掛るに遅く、人馬の休息難_レ成。

一、道廣き所にては、二行に可_レ押。左右を分、右を當番とす。或は橋細道有て、二行に難_レ押時は、左右交互して可_レ押。

一、大川を越時は、遊兵川上、先陣二陣は川下を可_レ越。

一、行程は大抵五六里を節とす。雖_レ然一定の法と難_レ仕。夏冬に日之長短有、嶮岨平岨之別有、進掛繰推之別有、船渡步涉之別
有、長途羊腸の別有り。兼て其土地を考へ行列を可_レ定。

旗二行、歩士二人、鐵炮弓二行、五人に一人の有_ニ小頭_一、足輕大將、長柄、五人に一人の有_ニ小頭_一、五十本に奉行一、騎士大將の
持_レ長柄_一とも一處に押。鉞鋤之役、同奉行。但、此奉行先行する事あり。乗替馬、大馬印、歩士一人。持筒、持弓、同足輕大將。使
士、挾箱、并、床机、馬印、同奉行。持鎧、并、甲冑、太鼓具、侍大將、歩士前左右に列す。後に中間、小者、同頭、使士、與力之士、同
與力頭。侍大將自分之騎馬、次に乗掛小荷駄等。

一手之侍大將

高橋右馬允・伊勢兵庫助・同又五郎・鈴木孫右衛門・伊達宮内少輔・赤木丹後。土師平十郎・日幡八郎左衛門・湯淺九郎兵衛。江
口左京進・明石左京進・明石兵部少輔・堺和助右衛門・頓宮次郎左衛門十二人相備、五十騎百騎之侍大將村々より在居之侍百
騎與力に付。

一、中島大炊助居城、知行高。備中國賀陽郡刑部郷經山城主、小寺片山要害屋敷、城付領、新山村、黒尾村、新田村、久米村、井尻

村、河武村、井山村、澁井村、井尻野村、淺尾村、門田村、小寺村。藥州吉田へ相務候時、爲_二餉領_一・豐田郡之内、船木村、佛道寺村、萩路村、眞良村。備中にて庄伊豆守御退治之跡地、爲_二戰功賞_一、被_レ下_レ。雲州尼子御退治之時、爲_二軍功賞_一・仁多郡之内、竹崎村、坂根村。天正三松山城主三村元親御退治之時、爲_二戰功賞_一・三村跡地二千貫御加増、有_二感狀_一・中島大炊助二階堂元行室。備中高松城主清水長左衛門尉宗治惣領娘。

嫡男中島治右衛門行義雅名又十郎、大學、二男中島勘十郎、清水右衛門尉養子に遣し、號_二清水勘右衛門_一・三女同國服部郷主冠山城

主禰屋七郎兵衛室。四男中島彦三郎、同國下道郡下原郷主伊世部山城主明石兵部少輔養子、後號_二中島筑後_一・五女同國日幡城主日幡六郎兵衛室。

從_二秀吉公_一、小早川隆景卿へ筑前筑後を被_レ遣、御入國之後、中島・清水を筑前へ被_レ呼下、爲_二客人分_一・中島大炊助に二百人扶持被_レ下、諸役御免、入道行秀に被_レ成候。嫡男治右衛門に二千四百五十石、筑後國生葉郡之内隈上村、國吉村、同國竹野郡の内麥生村、江利村を被_レ下候。清水五郎左衛門に三千石被_レ下、何_レも名島に住居仕り相務申候。備中より被_レ呼抱候侍百人餘、清水中島與力に被_レ仰付候。大炊助入道儀、折々致_二登城_一、所々軍談申上候様に被_レ仰付、御家中の衆日々出合申候。

此中國一亂記者、備中國賀陽郡前地頭刑部郷經山城主觀藏院前大倉署關溪行秀居士爲_二子孫後見_一書而以殘_二其來由_一者六卷、誠後之知_レ於_レ今猶_二今之知_レ於_レ古、雖_レ然其文拙也。若落_二他人之眼目_一擊_二笑于千歲_一者也。子孫憶_二焉矣_一。

于時元和元年

二階堂氏蘭溪行秀居士

朝鮮陣の時小早川隆景渡海の事

朝鮮御陣之時隆景卿御渡海被_レ成候に付、清水五郎左衛門中島治右衛門致_二御供_一候。於_二朝鮮_一從_二大明_一爲_二加勢_一、李如松大將にて數十萬の兵來る。日本勢惣先手小西攝津守平壤城被_レ責とも、不_レ落内に大明の大軍加勢に來る。小西は以此小勢・大明の大軍と戰はん事叶間敷と引退給ふ。大明勢續て都へ責來る。日本勢都の先手は隆景卿なり。此左の一先手粟屋四郎兵衛、右の一先手は井上五郎兵衛・清水五郎左衛門・中島治右衛門合備也。大明の大勢責來る

時、粟屋被_レ掛崩引退時、井上五郎兵衛相備清水五郎左衛門・中島治右衛門請留相戦内に、粟屋四郎兵衛も小返して相戦ふ。隆景卿旗本横鎧に突掛り數千騎討捕追崩、大に得_レ勝利給ふ。小早川隆景天下無双の名將と。從_レ秀吉公譽感御褒美被_レ成節、隆景卿へも御感狀被_レ下候に付、井上五郎兵衛・清水五郎左衛門・中島治右衛門申上るは、粟屋四郎兵衛一手は其場を退去仕候へども、我々踏留相戦候節、粟屋一備も取て返し、御旗本より横鎧に御合戦被_レ成候故、被_レ得_レ御勝利候間、粟屋と同文の御感狀頂戴仕間敷と申上候。粟屋は一番備故御感狀可被_レ下儀と、區々に申上候故、隆景卿戰功の輕重難分思召、御歸陣の後肥前國於_レ名護屋・秀吉公へ被_レ達上聞、御僉儀の上にて、井上五郎兵衛・清水五郎左衛門同文の御感狀被_レ下候。

去正月二十五日、大明夢都近邊へ寄來刻、爲_レ先手人數差出及合戦候處、井上五郎兵衛尉同意以覺悟大明夢切崩被_レ討御付、得_レ勝利候。一手共に令_レ粉骨無_レ比類、働、神妙之至候。仍感狀如_レ件。

文祿二年六月七日

中島治右衛門尉殿

隆景判

秀俊御家中島元行父子立退事

隆景卿累年中島大炊助父子へ御懇意不_レ淺に付、筑前へ罷下り、殊に於_レ朝鮮比類なき軍功有_レ之、秀吉公譜にも顯れ、御秘藏に思召、御家中若き者ども、毎月三日宛大炊助入道行秀方へ參入申、軍談を承候様にと被_レ仰付候處に、隆景卿筑前國於_レ名島御逝去被_レ遊候節、御一類より御家督の儀被_レ申上候へども不_レ相調、後秀俊卿を隆景卿の御家督に被_レ仰付候時、清水五郎左衛門中島治右衛門を伏見へ被_レ召、秀吉公へ御目見仕、御朱印を頂戴仕候時、山口玄蕃頭稻葉内匠御守に被_レ付候に付、筑前へ致_レ御供候處に、中島大炊助父子へ山口玄蕃會釋不禮に御座候に付、父子共に秀俊卿御家を致_レ退去、備中古郷へ引籠罷有候へば、山口玄蕃被_レ申渡候は、御代替に御家を退去仕候不届に被_レ思召候。備中古郷にて致_レ蟄居、何方へも不_レ罷出様にと、所の農民に被_レ申付候。從_レ秀吉公宇喜多秀

家卿へ御下知に、備中國賀陽郡主中島大炊助居城の跡地、御免地に被爲成被下候間、自今大炊助父子他所へ出し申儀停止と、郷民に堅く被仰付候。中島治右衛門儀備前岡山へ折々罷出候儀不届と、大炊助致立腹、向後義絶の由申立。治右衛門に男子二人御座候内、惣領宇右衛門を大炊助致惣領毛利秀就卿へ御目見仕らせ候。二男治左衛門を治右衛門惣領に仕召連、稻葉内匠殿御取持にて越前少將殿へ被召出候。

備中平山村又八郎蘇りの事

備中國賀陽郡板倉郷高松城主清水長左衛門尉宗治は、同郡平山村笠井又八郎世倅本クマの時分召仕掛目を候處に、宗治は天正十年於高松陣遂切腹子孫も散々に罷成給へば又八郎も在所へ引込み土民と成る。常々實體成者にて、朋友の交り深く候處に、慶長十六癸巳年病死仕、二七日過蘇り墓所より大聲出し申に付、掘返し候へば如前にして申は、閻魔王被仰は、其方此節參者にては無之候へども、年來佛を信心申故來世を見せ候。信心堅固に佛法を願申様にと存呼申候。本生へ歸り進萬人講、同郡奥里曳城に閻魔王堂建立仕、朝夕念佛を勤候へ、此所は郷境にて年來爭あり、戦死の傍輩數多有之に付、於來世及難儀體を、家の子家流の者へ申傳候へ。同郡岩屋に毘沙門堂を建、備前燒山常慶*に本尊を作らせ候様にと蒙夢想候由。平山村法道寺に阿彌陀堂を建、朝夕念佛を唱へ後世願、往生仕候はゞ、末世子孫可爲繁昌と進萬人講、右の願望成就仕、又相果申候。

大阪御陣の時水野日向守殿御備にて中島宇右衛門働の事

大炊助嫡男中島宇右衛門儀、慶長十九年大阪冬御陣の時從秀頼公爲掟意、大阪へ籠城仕候はゞ、備中國を可被遣と、山口左馬助・明石掃部・後藤又兵衛方より、御紋の御印船備前國牛志小串邊迄被下候。宇右衛門儀、親大炊助申は、先年備中にては秀吉公依御調略流浪仕、小早川隆景卿御懇意に付筑前へ御供仕處に、秀俊卿秋カへ山口玄蕃無情御取成に付、如此の居體に罷成候。優曇花を得待たり。從類を召連罷登り、大阪御城中へ矢一筋射込候はゞ、

*燒山常慶は八木山常慶を指す。

今生に存殘、事無之と勇み悦び、赤木丹州・三村彌五右衛門・同忠兵衛・友野彌右衛門・禰屋藤兵衛・柳田金十郎・中島彦十郎・同四兵衛・中村彌三右衛門以上五十一人相隨、五月二日に古郷を罷立、陸路を登り申處に、所々に關所多く御座候て、同四日に平野へ上著仕候節、明石掃部より上村右近右衛門に申越は、御上著候はゞ御案内可被仰越候。御籠城の御望候はゞ可申上候。中島宇右衛門返答に、親大炊助備中高松陣籠城の節、城相渡隨御方候はゞ、備中備後可被下と信長公御書有之、其箇隨身不仕此居體に罷成候。此度東將軍御方にて一戰可勤と罷登り候と、返答仕候。去冬も從秀頼公上意にて、山口左馬助後藤又兵衛よりも備前小由邊迄御船を被爲下、數輩罷登候へども私儀致延引候。上村右近右衛門と致暇乞別候。五月六日には、水野日向守殿、同美作守殿、御家來廣田儀太夫・杉野數馬に參會申、御備に罷有度由申入候へば、水野御父子共に東將軍御先手被仰付に付、御遠慮有之由、宇右衛門に申渡候故、同七日に八尾村邊迄罷出、天王寺邊を及見候へば、紺地に永樂の旗、其外數輩御備有之、境道より南へ廻る瓜生野の敵に差向、天王寺口を心掛働給ふと見えける。斯口、城兵明石掃部六千計相隨、水野日向守殿御備へ突懸り、暫入亂相戰ふ。此時中島宇右衛門一手は道明寺北に備居申處に、杉野數馬・竹本廣助・關佐次右衛門、何も手に合高名仕、松田金兵衛・廣田儀太夫同事に相働、中島宇右衛門備五十一人へ首十二討捕、則杉野數馬、竹本廣助・關佐治右衛門後日の證據に頼み申すと、言葉を通じ申節、明石掃部櫻の御門より入城、其外の城兵も入城、夫より取て返し、蒔田權佐殿御備へ參、春田五太夫に委細申談、所々の御合戰も止ける。蒔田權佐殿御宿陣へ參り候へば、熊野田へ參候へと被仰、今度の持無比類段、日向守殿と被仰合可被仰上候間、其内備中在所へ引込居申、東將軍より御仕置能々相守、大阪諸浪人領内に置不申様にと、所の郷民にも申渡候様にと被仰、備中へ罷下候。

水野美作守殿御家來廣田圖書・杉野數馬より、中島宇右衛門に參候様にと、飛脚差越罷下り申候へば、宇右衛門儀美作守殿へ可被召出と申に付、其節中島宇右衛門申は、小知にても東將軍へ罷出度由、蒔田權佐殿より稻葉内匠頭殿へ被仰入候と申、古郷へ罷歸候。其内中島治右衛門儀、稻葉内匠頭殿以御肝煎、越前少將殿へ被召出一候間、

宇右衛門儀も、水野美作守殿へ罷出候へと御申候故、小知にても將軍家へ被_レ召出_二候様に、御取持奉_レ頼由申、備中
古郷に引込居申處に、毛利秀就卿御尋被_レ成度子細多候間、長州萩へ罷越候様にと、清水美作・中島筑後迎に被_レ下候
故、長州へ參候へば、秀就卿御逢被_レ成、近年流浪の仕合苦勞に存候。大阪へ罷越水野美作守相備の様に罷在、働の品
々美作守時田權佐委細咄しにて令_ニ承知_一候。向後當國に安坐仕、親大炊助を慰め申様にと御意御座候。

六戸備前益田玄蕃より、中島宇右衛門を被_ニ呼越_一被_ニ申渡_一は、親大炊助儀當國に致_ニ安座_一候様に被_ニ仰付_一、家中若
侍共大炊助宅へ出入仕、古戦場の咄し共承候様にと申渡候。大炊助へ重々御懇に被_ニ仰付_一候、御自分儀當家を不離
る筋目に候。彌致_ニ安座_一、大炊助介抱仕候様にと内意共被_ニ申候_一。宇右衛門申は、重々忝仕合に奉_レ存候、清水長左衛門
宗治惣領同美作姉は私母にて御座候。美作儀、結構に被_ニ召出_一候處に、私儀御用に立申者にて無_ニ御座_一候へども、清
水中島從類の者共、多在所へ引込居申候間、私儀も備中へ罷歸、母へ盡_ニ孝行_一暮し、自然の儀も御座候はゞ從類を召
連罷出、相應の御勤可仕と申、長州御奉公不_ニ相勤_一、備中へ罷歸候。在所に罷在內、讃州より松平半左衛門を、水谷伊
勢守殿へ御悅使者に被_レ遣候節、宇右衛門宅へ被_レ尋、古今の儀ども尋、是非讃州へ被_レ參候様にとの儀にて、半左衛
門罷歸候。其後小早川式部松平半左衛門より、中島宇右衛門是非參候様にと迎を差越、宇右衛門彼地へ罷越候へば、
右京大夫殿へ罷出相勤候様にと、知行の高下被_ニ仰聞_一、御請を申處に、其節より病氣に罷成候故、備中在所に引込居
申、浪人にて相果申候。

中島昌行機岳行禪居士